

指定管理業務評価表

施設名	小牧市歴史館		
対象年度	令和元年度	評価担当部	教育委員会事務局
指定管理者名	一般財団法人 こまき市民文化財団		
指定期間	平成30年4月1日 ~ 令和5年3月31日		
職員体制	常勤職員：1人	非常勤職員：2人	合計：3人

1. 利用実績

(1) 利用者数

		歴史館			総計
		個人	団体	計	
4	大人	10,751	1,488	12,239	15,825
月	小人	3,097	489	3,586	
5	大人	6,194	388	6,582	8,955
月	小人	1,732	641	2,373	
6	大人	2,002	497	2,499	2,999
月	小人	319	181	500	
7	大人	1,723	375	2,098	2,472
月	小人	374	0	374	
8	大人	1,879	904	2,783	3,390
月	小人	607	0	607	
9	大人	2,036	813	2,849	3,423
月	小人	574	0	574	
10	大人	2,560	794	3,354	4,131
月	小人	777	0	777	
11	大人	2,633	1,420	4,053	4,753
月	小人	700	0	700	
12	大人	1,299	875	2,174	2,537
月	小人	363	0	363	
1	大人	1,110	446	1,556	1,927
月	小人	336	35	371	
2	大人	1,221	547	1,768	2,129
月	小人	361	0	361	
3	大人	0	0	0	0
月	小人	0	0	0	
合	大人	33,408	8,547	41,955	52,541
計	小人	9,240	1,346	10,586	
年	計	42,648	9,893	52,541	-
前	前年度計	52,370	6,750	59,120	
年	前年比	△18.6%	46.6%	△11.1%	-

(2) 増減要因

令和元年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年2月29日から3月31日まで閉館しました。例年3月は桜が開花し、多くの来館者が見込まれる月であるため、来館者数減少に大きく影響しました。

しかしながら、昨年度と比較すると団体客数の増加がみられます。これは旅行会社等と連携した誘客活動の成果と考えられます。

今後は、小牧山城史跡情報館と連携して、歴史館へ来館したいと思わせるイベントや企画展等を充実させるとともに、情報発信を積極的に行う必要があります。

2. 利用者アンケートの結果

実施期間	令和元年11月 1日～ 11月15日	回答数	51名
利用者の主な意見	市外からの利用者は、88%を占めており、利用頻度については、半数以上が初めてと回答している。職員の対応については、満足・やや満足との回答が96%である。施設や設備については、90%が満足（やや満足）と回答している。意見として、展示品や甲冑試着体験が好評であった。その他では「駐車場の場所がわからない」といった意見があった。		
具体的な対応状況	駐車場については、既に市ホームページ、財団ホームページ、各種パンフレット等に掲載をしているが、今後同様の掲載をする際にはわかりやすい表記を心がけるようにする。		

3. 収支の実績

(単位：千円)

		30年度 (前年決算額)	元年度 (現年決算額)	2年度 (翌年予算額)	備考 (主な内訳、増減要因)
収 入	指定管理料	21,229	21,457	25,317	
	事業収入		14	300	忍者衣装試着体験料
	合計	21,229	21,471	25,617	
支 出	人件費	12,330	12,529	14,766	
	需用費	2,353	2,513	3,410	消耗品費、燃料費等
	役務費	221	206	922	通信運搬費等
	委託料	2,387	2,187	2,407	企画展示業務委託料
	使用料及び賃借料	384	386	391	モップ及びマット借上料等
	原材料費	0	1	50	
	負担金及び補助金	0	0	0	
	報償費	61	21	130	歴史ボランティア等謝礼
	事務局費按分	3,493	3,628	3,541	
	合計	21,229	21,471	25,617	

4. 評価

項目	市の評価
運営業務	• 法令等の遵守、報告書等の提出、個人情報の取扱は適切に実施されている。鍵の保管方法などについて、引き続き、適切に扱うこと。
維持管理業務	• 施設・設備の点検・保守は確実に行われている。
自主事業	• 忍者衣装試着体験や甲冑試着会の開催により、利用者が増加している。引き続き、自主事業の実施に努めること。
サービスの質	• 利用者アンケート調査の中で、職員の対応については、96%の利用者が満足（やや満足）と回答している。利用者がより快適に施設を利用できるよう考慮して、日々の業務にあたること。
収支状況 及び 経費節減	• 引き続き、経費削減を意識し、施設管理にあたること。
その他 (緊急時の 対応等)	• 引き続き、不審者対応訓練・消防訓練により非常時、緊急時の適切な対応の強化をすること。